



MDP

Sagan Tosu

MATCHDAY PROGRAM

7.14 (日)

追

19:00 KICK OFF  
vs ガンバ大阪

©2022 GAMBA OSAKA CO., LTD.

「自分の力を証明したい」。中原輝がサガン鳥栖にやってきた理由はシンプルだった。もともとは当時J3だった熊本でプロ生活をスタート。自らのプレーで結果を残し、J2の山形、J1のC大阪とステップアップを果たした苦勞人でもある。しかし、たどり着いたJ1の舞台では挫折を味わった。「自信は持っていないながら年間を通して試合に絡むことがあまりできなかった」。出場機会は限られ、C大阪加入2年目の23年はシーズン途中から東京Vへと戦いの場を移す。しかし、そこで自らが持っていた自信が虚勢ではなかったことを示す。東京Vの躍進に大きく貢献し、J1昇格プレーオフでも躍動。東京Vの16年ぶりのJ1昇格に“救世主”として大きく貢献した。その活躍が認められ、鳥栖からのオファーを勝ち取ると再び、J1の舞台に挑戦することを決意した。

しかし、待っていたのは厳しい日々だった。開幕を目前に控えた練習中に負傷。「年間を通して試合に絡み続ける」という目標は開幕を待たずして潰れてしまった。懸命のリハビリを経て1ヶ月後ようやく戦線復帰を果たすが、復帰から2試合目となった第7節浦和戦で同じケガを再発してしまう。これまで経験したことがなかった長期のリハビリに「苦しかった」と中原の心は打ちのめされた。それでも、顔をすぐに上げた。「仲間を信じて、自分は一日でも早く治すことに集中する」。野心を抱き、鳥栖に来ながらともにボールを蹴れない日々。そのギャップに苦しんだが、中原は乗り越えた。「絶対にもう再発させない」という誓いの中、万全に万全を重ねてたどり着いた復帰戦。第20節C大阪戦で背番号8は帰ってきた。「まずこうやってピッチに立てたことは前に進めたかなと思います」。安堵の表情を見せたが、これはスタートに過ぎない。シーズンを通して活躍するという目標は叶わなかったが、自分の力を証明するための時間は十分に残されている。苦しい時間を乗り越えた中原がここからチームを高みへと導く。

苦しみを抜いたときを乗り越えて。  
中原輝自分  
の力  
を証明する。

MF 8

中原 輝

Hikaru NAKAHARA



佐賀市民応援マッチ